

施策番号	施策名	予算額(百万円)
125	市民活動の推進	68
<p>【2010年度の目標】 市民による自発的な社会活動は、あらゆる分野で活発に行われており、活動団体相互間や、活動団体と行政、企業の間には、幅広いネットワークが形成されているとともに、それぞれが協働して社会的役割をになっています。</p>		
項目	現 状	2010年度の目標
市民活動を支えるネットワークの構築	-	市民活動を支援する組織が設立され、さまざまな団体とのネットワークが構築されています。
県、市町村の施設の一般開放および備品等の使用	県 学校、駐車場の一部 市町村 学校、集会所などの一部	利用の希望のあるところは全て利用可能となっています。
自治体職員の市民活動への参加	ボランティア体験が増えるなど、ボランティア活動などへの参加の気運が高まっています。	大多数の自治体職員はボランティア休暇を利用してボランティア活動をしたり、自発的にさまざまな市民活動に参加しています。
市町村、企業のボランティア休暇の導入	市町村 11.6% (8市町村) 企業 4.4%	市町村 100% 企業 100%

<これまでの取組>

ボランティア・市民活動の支援

- 三重県市民活動センターの機能を充実させるために、センター運営委員会で市民とともに運営のあり方を検討するとともに、市民活動ニュースの発行、及び市民活動情報ネットワークシステム（NAVIS）の構築により、情報のキーステーションとしての充実に努めました。
- 「地域NPO活動基盤整備事業」により、県内の各地にNPOを支援するNPOが育ち、今後NPOの成熟や多様化に貢献が期待されています、また、市民活動を資金面からサポートするシステムを研究するため、NPO活動助成および融資についての調査研究を実施しました。

ボランティア・市民活動団体との協働の推進

- 市民活動・ボランティア団体との協働をすすめるため、「みえNPOパートナーシップフォーラム」を開催し、協働の阻害要因を探るうち、NPOと行政との出会いの場をつくるNPO仲人協働隊が生まれ、「NPO&行政プロポーズ大作戦」を開催するに至りました。
- また「市民による事業評価システム」を生み出すとともに、庁内に「NPO協働事業研究会」を設置して、協働する際の具体的な課題を検討し、「行政とNPOの協働のためのチェックシート」作成しました。

<平成13年度の取組>

ボランティア・市民活動の支援

- 市民活動団体のネットワークの構築や、団体のマネジメント能力向上などの活動は、地域に生まれつつある「NPOを支援するNPO」に委ね、県はこのNPOの側面的支援を行うことで、地域NPOへのきめ細かなバックアップをしていきます。
- 平成13年4月には国際交流部門や青少年育成部門と「みえ市民活動ボランティアセンター」が津駅北ビル「アスト津」に集中することとなり、各関係団体が一体となって市民主体の開かれた運営を実現するとともに、ボランティア・市民活動の情報のキーステーションとしての機能の充実に努めます。
- 2001年ボランティア国際年への対応を、社協や教委をはじめ、各団体と協力して取り組むことで、県民のボランティア・市民活動への理解を高め、参加を促進します。
- 市町村や学校、集会所など、施設の一般開放および備品等の使用をすすめることで、ボランティア・市民活動をしやすい環境づくりに努めます。

ボランティア・市民活動団体との協働の推進

- ・ NPOと行政の協働のあり方を探りつつ、真のパートナーシップにもとづいた協働への取組みを進め、市民参画によるまちづくり実現のために、NPOと行政との協働を進めます。
- ・ 県庁各部に協働事業担当者を配置して協働を積極的に推進するとともに、市町村のNPOに対する理解を高めるため、各県民局管内市町村のNPO担当による情報交換会や研修会を実施し、市町村のNPOとの協働に対する理解を求め、市町村・企業・学校などとNPOやボランティアの連携による取組みを支援していきます。

主な事業

- 1 NPOとの協働推進事業 (1,147(1,147)千円)
【(101)NPOとの協働推進事業】[生活部]
県庁各部局や市町村の職員とともに、NPOと行政の協働のあり方を探りつつ、協働事業評価システムの実践と協働事業の事例研究などにより、真のパートナーシップにもとづいた協働への取組みを進めます。
- 2 NPO活動支援推進事業 (15,139(15,139)千円)
【(201)NPO活動推進事業】[生活部]
情報キーステーションとしての機能を充実した「みえ市民活動ボランティアセンター」の活用を進め、県民の自主的で営利を目的としないさまざまな活動や交流を支援します。